

なかつか 亮



これで良いのでしょうか

教育改革 学校選択制
小中一貫教育 の充実・発展のため

「学校統合という手段が必要」

品川区学事制度審議会が答申を発表



選択制導入時の
「統廃合はしない」
の説明は何だったの？

一貫校に生徒を
集中させ、周辺
校を廃校とは
やり方がひどい

昨年8月に若月教育長が設置し、17回にわたって開催された学事制度審議会の答申が、11月25日の区議会に報告されました。答申は「教育改革のさらなる充実・発展のための提言」とし、「学校統合という手段による対処が必要」とするもの。審議会は非公開。住民意見公募はわずか2週間。保護者、地域への説明会は実施せず統廃合計画とは、あまりに乱暴。母校の統廃合が、これで良いのでしょうか。

統廃合「不安が現実」

学校選択制を皮切りに始まった品川の教育改革。保護者の「統廃合に繋がるのでは」との不安に、区は「統廃合は考えていない」と説明してきました。

しかし、学校選択制で児童が集中する学校と激減する学校との2極化、小中一貫校開設で一貫校への集中と、周辺校の激減が固定化されました。

その後、06年区長選挙後に濱野区長が「学校と児童数にアンバランスがある」と発言。

これを機に、一気に学校統廃合が加速し、統廃合が現実のものとなりました。裏へ

答申の内容

答申は「学校選択制や小中一貫教育など教育改革のさらなる充実・発展のため」「現在行っている教育改革や小中一貫教育に対する期待にこたえ、その進展のため」と説明し、「将来的には学校統合という手段による対処が必要となることもある」と結論。区教委に「早期に学校配置・改革についての具体的な年次計画を策定」と提案しています。

地区ごとに計画

また区内38小学校、16中学校を、品川地区、大崎地区、大井地区、八潮地区、荏原西地区、荏原東地区の六つに分け、地区ごとに「配置に関する考察」を発表。主に荏原東、西地区の小学校統廃合が示されました。左参照

選択制、小中一貫教育のためと言ったが、
答申は教育改革推進のため統廃合が必要というもの。し

かし区民はそんな計画を望んでいるのでしょうか。私は、むしろ「教育改革の見直し」こそ区民の願いだと思います。

品川区が実施した住民意見公募には「施設一体型小中一貫校に、区民はさほど魅力を感じていないのではないかと」「通学区域弾力化（選択制）により地域の中の顔が見えにくくなっている」との意見があがっています。また区実施のアンケートでは「小中一貫

校」を選んだ方は18%のみ。教育活動では「小中一貫した教育内容の推進」を選んだ区民は4%のみです。学校選択制の満足度調査では「満足」は45%と過半数すら届きませんでした。私は、区民に理解されない教育改革を進めるために、学校を統廃合するとは納得できません。卒業生にとって母校の存続にかかわる大きな問題。皆さんはいかがお考えになりますか。なかつか亮

学事制度審議会 答申より抜粋

(下線部分が統廃合の指摘箇所)

小学校

品川地区 (品川・城南・浅間台・御殿山・城南第二・台場)

「6校すべての存続が必要である」

大崎地区

(三木・第一日野・第二日野・芳水・第三日野・第四日野)

「6校すべての存続が必要である」

大井地区

(大井第一・鮫浜・山中・原・立会・浜川・伊藤・鈴ヶ森)

「8校すべての存続が必要である。他地区との均衡上、地区の分割が検討課題」

八潮地区 (八潮学園)

「入学予想数に学校施設が対応できる」

荏原西地区 (京陽・延山・中延・小山・第二延山・後地・平塚・清水台・小山台)

「今後、学校統合を検討する必要がある」

荏原東地区

(杜松・大原・宮前・大間窪・源氏前・戸越・旗台・上神明)

「改築時に併せた近隣校のさらなる統合を検討する必要がある」



中学校

品川・大崎地区 (東海・城南・日野・大崎)

「4校すべての存続が必要である」

大井地区 (浜川・伊藤・鈴ヶ森・富士見台)

「(修学人口の)ピーク後の状況により、学校統合を検討する必要がある」

八潮地区 (八潮学園)

「入学予想数に学校施設が対応できる」

荏原西地区 (荏原第一・荏原第六・荏原平塚)

「教室数に余数が生ずる予想される」

荏原東地区 (荏原第三・荏原第四・荏原第五・戸越台)

「荏原三中、四中を統合しても教室数に余裕が生ずると予想される」

次回の『気軽な町の無料法律相談会』は1月16日(金)夕方6～8時です。生活相談はいつでもお気軽にお電話を。
区議控室 5742 6818